

横田基地へのオスプレイ配備計画に抗議し、撤回を求める

(談話)

2015年5月13日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

日米両政府は12日、米軍横田基地に米空軍の特殊作戦用の垂直離着陸機CV22オスプレイを2017年から配備すると発表しました。

開発段階から事故を重ね、多くの人命を奪っているオスプレイを住宅が密集する首都の基地に配備することは断じて認められません。

私たちは、今回の配備計画に強く抗議し、アメリカに対して計画撤回を求めるよう日本政府に強く要求します。

沖縄の普天間基地にはすでに、MV22オスプレイ24機が配備され、日米合意に反して、住宅、病院、学校などの上空を夜間も飛行するなど、住民に大きな被害をもたらすとともに、その訓練を全国に拡大しようとしています。

今回、横田基地に配備が狙われている空軍用のCV22オスプレイは、MV22に比べても深刻な事故である「クラスA」の事故率が3倍以上に上っており、きわめて危険な軍用機です。日米両政府は、このCV22オスプレイを夜間や低空でも飛行訓練させるとしており、無謀極まりないものです。

今回のオスプレイ横田基地配備で沖縄の負担が軽減されることはありません。CV22オスプレイがになう特殊作戦の部隊は沖縄・読谷村などに配置されており、沖縄での運用は不可欠だからです。今回の配備は関東地方と沖縄の両方に負担と被害をもたらす最悪のものです。

政府は、横田基地をかかえる5市1町に説明をおこないましたが、加藤育夫福生市長らは「これ以上の基地強化は受け入れられない」としています。このような地元自治体や住民の意思を無視して配備を強行することは許されません。

私たちは、首都圏・関東をはじめ全国に脅威と被害をもたらすオスプレイの新たな配備を許さず、日本にあるオスプレイ全部の配備を撤回させるため、沖縄と連帯して全国に運動を広げる決意です。

以上